

昨年12月に中国湖北省武漢市で初めて報告された新型コロナウイルス感染症は、いまや全世界で猛威を振るい、ついにWHOはパンデミックと表明した。そのWHOによると80歳以上の高齢者の致死率が21・9%と5人に1人という高値であるのに対して、年齢不問で合併症がない人の致死率が1・4%と致死率に大幅な違いがみられている。

北海道医療大学の塚本教授によると、今回の感染症の重症化要因のひとつとして、喫煙

に対する防御策として、まずマスクの着用が挙げられる。飛沫は水分を含み直径5μmより大であるためにマスクで捕獲され、2m以上の距離を保つことで感染を免れることができる。バレンタインデーにチョコレートに一冊の本が添えられて送られてきた。送り主は女優の小山明子さんである。小山さんには3年前に私どもの病院に来ていただいて、ご主人である大島渚監督の介護にまつわるご講演をしていただいた。院内講演が大変好評で昨年、一般の方々を対象に、当院の開設30周年の記念講演をお願いし、再度、苫小牧の土を踏んでいた。たまたま見

感謝すること・距離を保つこと

情報広報部 橋本 洋一

たまたま見つけた肺がんと、予定通りのスケジュールで来道され、意

の関与を強調されていた。昨年末頃から道議会での喫煙所の設置が物議を醸していたが、今回の感染症増悪の観点からみても、喫煙に対する見方は一段と厳しいものとなるだろう。

今後、時間の推移と共にワクチン、抗ウイルス剤の開発が進められるであろうが、現時点では有効性の面から抗新型インフルエンザ薬・アビガンと抗HIV薬が治療の選択肢に挙げられているようである。主な感染経路が飛沫感染で、経口感染はないとのことだが、飛沫感染に

の手術をして2カ月弱といった時期であったが、予定通りのスケジュールで来道され、意志力の強さに圧倒される思いがした。

チョコレートと一緒に送られてきた本は神奈川県医師会報の2020年新春随想増刊号で、理事のI先生の司会のもと、会長のK先生と小山さんとの対談が掲載されていた。

1996年、監督がヨーロッパ各地で2日間の日程で『日本映画の百年』と『戦場のメリークリスマス』の講演をして飛び回ると

いう過密なスケジュールの中でロンドンのヒースロー空港に向かうタクシーの中で脳出血を発症された。ドラマの出演のために小山さんがすぐに駆けつけることができず、代わりに息子さんと事務所の女性に行ってもらったことで自責の念にとらわれ、鬱を発病された。その後、自殺未遂を起こされ、一時、精神病院に入院されたらしい。しかし、日常の介護生活に埋没することなく、身だしなみを綺麗にして映画祭への出席という非日常の生活を送られながら、3、4年の歳月をへて、鬱病のトンネルから抜け出すことに成功された。

小山さんが意を決して、女優業をやめ、大島監督の介護に生きようと決心されたにも関わらず心が折れそうになった時に、監督が《感謝》という言葉をよく使われたらしい。この《感謝》という言葉のお陰で今まで何とかやってこられたと振り返られる。小山さんの講演を拝聴して、介護を受ける身になった時に、いや、なる前から、この《感謝》という言葉の言葉を使おうと私は決め込んだ。

妻だから何でもやるのが当たり前と決めている前に、夫婦は他人であるという事実に基づいて、以心伝心に頼らないで、《感謝》の気持ちや言葉を伝えることが重要である。夫婦も新型コロナウイルスもある程度の距離をおいて律した生活を送ることが、心の通った介護や感染防御につながることを確信するに至った。